

# 石鹸と水！

品川区立西大井保育園(東京都品川区)

[3歳児]

[事前の体験]手洗い場からなかなか戻って来ない子どもたちの姿が毎日のようにある。石鹸で泡立てたり水で流したりすることを繰り返している。

| 子どもの姿   | 保育者の援助  |
|---|---|
| <p><b>事例 石鹸で遊ぼう</b></p> <p>「石鹸ツルツルする」「いい匂い」と言いながら、タライの中でいつもの手洗いのように水に手をつけた状態で石鹸を擦っていると泡立ってくる。泡がいっぱい出てくる方法を見つけたと喜ぶが、泡が次第になくなることにも気付く。</p> <p>スポンジに気付いて使う子どもがいる。直接石鹸を付けて泡が出ない体験をしている子どもがいる。タライに水があるので、すぐに水の中で石鹸と水をこすり合わせ、「ブクブク出てきた」「見て、泡出てきた」と言い、喜んで泡を作ったり保育者や友達に見せたりする。作った泡の感触を楽しんだりたくさん作ることに夢中になったりする。</p>  | <p>人工芝を敷いたプールに、タライ、バケツ、水、石鹸を用意する。またプールの外にも、スノコを置き、同様にスペースを広くとり、中で遊べるようにする。</p>  <p>泡ができない子どもがいるので、スポンジも設定する。</p> |
| <p><b>事例 アイス屋さん</b></p> <p>泡をアイスに見立てて遊ぶようになる。</p> <p>ストロースプーンに気付き、遊び出す。(泡や液を飲んでしまうことはない) A児は泡の入った容器にストロースプーンで息を吹き、容器の中を泡でいっぱいにする。見ていたB児がまねるが上手くいかないので、A児の傍に行き観察する。C児も同様に上手く泡が出るので、D児がどうしたらいいのか訊ねる。C児は、D児の石鹸水より自分の方が白いことから、濃度の違いに気付き、そのことをD児に伝える。</p>  | <p>皿、ストロースプーン(長・短)を設定する。</p>    |
| <p><b>事例 カルピスできた</b></p> <p>子どもたちが石鹸を水の中でクルクル回していると、透明の水が白く濁ってきた。それを見て...</p> <p>子「先生ちょっと見て～」</p> <p>保育者「なに？」</p> <p>子「なんか白くなってきたよ、カルピスになったの」</p> <p>保育者「ほんとにカルピスみたいだね」</p> <p>子「でもカルピスはアワワにならないよ」</p> <p>保育者「そうだね、でもどうして石鹸は、アワワになるんだろうね？」</p> <p>子「.....ん～だってね、ツルツルしてるから」</p> <p>保育者「そっか～、石鹸は、ツルツルしてるからアワワになるんだね」</p>  | <p>小さく切った石鹸、透明カップや皿、ストロースプーン、スポンジ、タオルを設定する。</p>    |
| <p><b>事例 泡が立ったよ</b></p> <p>新しい教材の泡だて器やボールに気付き使う。いろいろ試すうちに泡だて器の使い方がわかり、細やかな泡ができる。泡が立つことを喜ぶ。翌日にはさらに固まっている。水がないことを不思議に思う。</p>  | <p>今までの環境にボールや泡だて器などを加える。</p> <p>翌日も続きができるようにする。</p>  |

[考察] 子どもたちは石鹸と水で泡が出てくることを体験からわかっているため、泡が出ることを3歳児なりに予想して遊んでいる。そのため、様々な道具や教材の使い方を知らなくても、環境にあることで手にして使ってみようとするのがわかる。また、同じ場で遊ぶ友達がどんなふうに使っているのか、見たりまねたりすることで別の使い方につながっていく。

## みどころ

初めは水なしで石鹸を試す姿がありましたが、体験を重ねることで、固まった泡には水がないことを不思議に思うようになっていきます。水と石鹸で泡ができるらしいことが、3歳児なりにわかって遊んでいるので、道具や教材もめあてをもって試行錯誤しながら使っていると思います。こうして様々な泡やでき方を体験することは、子どもたちの“科学する心”の育ち”に結び付くことが期待できます。